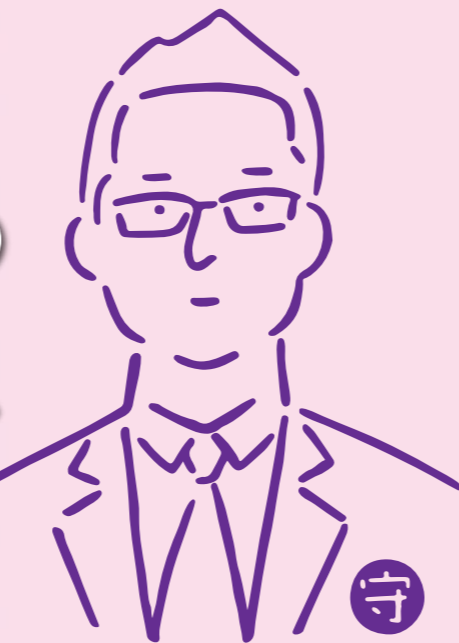


まもるポ

Vol.2
2017.3月

京都市会議員 森田 守



ごしのこととお喜び申し上げますとともに、平素は私の政治活動に対し、温かいご支持ご支援を賜り心より感謝申し上げます。さて、まもるポの発行も1年ぶりとなりましたが、この1年を振り返りますと、京都市政においては文化庁の京都移転の決定をはじめ、京都鉄道博物館の開館、京都駅八条口駅前広場



寒さの中にも
ようやく春の気配
を感じられる季節
を迎え、皆様には
ご健勝にてお過

京都市会議員として、 そして父として

の再整備など様々な出来事がありました。一方で、違法「民泊」への対策や、好調な観光を税収増にどのように繋げるか、また、低水準となっている出生率など、問題も山積しています。私も昨年5月には初めての代表質問の機会をいただき、京都市の抱える様々な課題に対して質問をいたしました。

またプライベートでは、今年の夏に第5子を授かることとなり、喜びと共に大変身の引き締まる思いです。ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の重要性が叫ばれる中、誰もがやりがいをもって働きながら、子育てや介護、家庭、地域に対してもしっかりと関わって豊かに生活できるよう、私も自身も率先垂範し、市民の皆様も代表としてしっかりと頑張っています。今後も京都市の抱える多くの課題に対して問題提起を行うとともに、市民の皆さんのご相談や、お困りごとの解決にも取り組んでいきますので、引き続きご指導ご鞭撻いただきます様よろしくお願い申し上げます。

森田 守
プロフィール

1975年(昭和50年) 6月15日生まれ
1994年(平成06年) 同志社大学法学部法律学科入学
1998年(平成10年) 同志社大学法学部法律学科卒業
1998年(平成10年) 株式会社エー・ピー・ジャパン入社

2004年(平成16年) 参議院議員二之湯智秘書
2015年(平成27年) 京都市会議員初当選
2015年(平成27年) 教育福祉委員会委員
2016年(平成28年) まちづくり委員会委員

家族構成 妻、娘3人、息子1人、猫の6人家族
(夏には家族が一人増える予定です)
趣味 スキー、アウトドア、旅行

知って
京都市会

政務活動費



～使い道は全て公開されています～

市会に関する基本的なことや、その時々話題について、皆さんにわかりやすくお伝えします。
今回は「政務活動費」について解説します。



Q1 政務活動費って?

A 政務活動費は「議員の調査研究その他の活動」に役立てるために議員や会派に交付されるお金です。



Q2 具体的に何に使えるの?

A 例えば、調査研究、広報公聴、資料の作成・購入、人件費、事務所費など、「市政の課題や市民の意思を把握し、市政に反映させるための活動などの経費」への使用が認められています。

Q3 調査研究などのためなら自由に使えるの?

A 政務活動費が何に使えるかは条例で決められています。京都市でも政務活動費を使える範囲を細かく定められています。また使わなかった分は返さなければなりません。

Q4 ちゃんと使われているのかな?

A 議員は、政務活動費を何に使ったかがわかるよう、収支報告書にまとめて、領収書と一緒に議長に提出することになっています。提出された書類は、市役所やホームページで公開されています。

京都市では、開かれた市会をより一層推進するため、平成28年8月31日から、政務活動費に関する領収書などについて、ホームページ上での公開を開始しました!

右京
探訪

森田 守がご近所を探検して、気になるアレコレをご紹介します。

京北 宇津峡キャンプ場

豊かな自然環境に恵まれた京北地域。先日は宇津峡キャンプ場で、子どもたちと休日を通しました。私の住む西院からでも、車で1時間以内で行くことができます。右京区には様々な魅力があり奥深いです。



森田守は今日も京を行く!!

森田守の日常を
徹底ルポターシユ

平成28年
5月市会
代表質問

①自治会の加入率向上について



Q 平成24年度以降、自治会加入率は約70パーセントで横ばいとなっており、目標値77パーセントを大きく下回っています。まちづくりは人づくりの言うように、多くの市民の参加と協働を実現していくためには、やはり地域力の核である自治会の加入促進は避けて通れない課題です。目標を達成するためには、文化市民局のみならず全庁挙げての取り組みが必要だと考えますが、目標達成に向けたご所見をお聞かせください。

A 本年3月に地域コミュニティ活性化推進計画を改定し、自治会を中心に様々な団体が連携して地域課題の解決に取り組む新たな地域自治組織について、まず今年度

2箇所モデル実施を始めるとともに、宅地開発の際に自治会の設立や加入促進に向けて地域の皆様と住宅関連事業者が協議する仕組みの構築など自治会加入の二層の促進に向け、関係局や区役所が連携し地域と一体となった二歩踏み込んだ取組を展開することとしております。

②待機児童対策について

Q 本年4月の保育所等の利用児童数はどのような状況だったのか、そして待機児童数は何人だったのかお答えください。国基準の待機児童ゼロは、市民感覚とは必ずしも一致していないのが現状です。国基準の待機児童ゼロの継続に満足するこ

となく、さらには上を目指していくことが大切だと思います。これまで以上に重点的な保育所整備と保育士の確保、これまで守り育ててきた高い保育水準の維持向上を整備するべきだと考えますが、今後の取り組みについてお伺いします。

A 本年4月には、新たに901人分の保育枠を拡充し、国基準による待機児童ゼロを3年連続で達成いたしました。さらに、今年度予算では、市会からの御要望を踏まえまして、新たに1歳児に対する保育士配置の充実や保育士確保のための予算を確保し、保育関係団体と協力のうえ、保育の質の向上に努めるとともに、今後に向けて新たに767人分の更なる児童受入枠の拡充を図っております。今後も、御指摘のとおり、国基準の待機児童ゼロに満足することなく、京都で子育てしてよかつたと実感していただけるよう、更に力を尽くしてまいります。

③京北の小中一貫校について

Q 本市ではこれまで地元主導によつて、京北地域小中一貫教育校の統合の是非が話し合われてきましたが、設置者となる京都市としての考え、決意をお聞きしたいと思えます。また京北には府立北桑田高校

がありすが、少子化に直面しています。このような状況を踏まえ、京北小中一貫教育校との連携を考えるべきではないかとの質問をしてきましたが、この点についてもご所見をお伺いします。最後に、小中一貫教育校創設後の跡地活用は、京北地域にとつて、ソフト・ハード両面にわたる極めて大きな事業になってきます。京北地域の人口減少に歯止めをかけ、活性化していくために、スピード感を持って実効性のある京北地域の活性化策に取り組んでいただきたいと思えます。

A 御指摘のとおり府立北桑田高校取組を進展させ、小学校から12年間の連続した学びの魅力あふれる教育実践が展開されるよう府教委と協議して取り組んでまいります。京北地域の活性化策について今後は、四つの元小学校や学校統合により新たに活用が可能となる施設の活用方策の検討はもとより、超高速インターネット環境の整備の促進や子育て、教育環境の充実、更には地域と一体となった移住促進や空き家対策の推進など、より実効性の高い活性化策を地域の皆様としっかりと取り組んでまいります。

平成28年
9月・11月
市会

今年度は「まちづくり委員会」に所属しており、平成28年9月市会、11月市会における質問内容の一部は以下の通りです。

太秦天神川駅西部のまちづくり

太秦天神川駅西部のまちづくりの中でも重要な都市計画道路、「梅津太秦線、御池通」について、基本構想の中で優先すべき課題とされているにも関わらず、財政状況が厳しいという理由で、現在まで取り組みが見送られている。防災面、また日常生活においても1日も早い整備をしていただきたい。

阪急西院駅のバリアフリー化

阪急西院駅のバリアフリー化が1年前倒しされ、平成31年度中となったことは素晴らしいことと評価している。阪急西院駅改札口周辺には、日常的に信号待ちの歩行者や、バス待ちの方々が多く滞留しているにも関わらず、歩行者スペースが限られている。さらにバス停には屋根がなく、雨の日には、阪急西院駅の屋根の下は多くの方々が混雑している。現在、改札口前の歩道と車道の間には利用されていないスペースがあるので、歩道拡幅に利用してもらうとともに、バス停の屋根についても設置を十分考慮してもらいたい。

他都市へ調査に伺いました!

8月24日(水)〜26日(金)



●吹田市
千里ニュータウンの再生
●福山市
鞆地区歴史的町並み保存
●福岡市
アイランドシティ住宅開発事業

岡山市「そらカフェ」常設化に向けた取り組み

9月1日(木)〜2日(金)

●加古川市
播磨社会復帰推進センターにおけるPFI手法による刑務所の運営
●阿南市
野球のまち阿南推進事業



11月10日(木)

●京都市
桃山南団地リノベーションプロジェクト
および京都女子大学との連携
●東京都
12月12日(月)
宿泊(観光)税について調査



阿南市視察

身近雑記



子ども

今年の夏に5人目が産まれることになった。これからのことを考えると大変なことも多いが、子育てを通して得られるものは何物にも代えがたいものがある。妻にも感謝しながら父親として恥ずかしくない生き方をしていかなければならない。



運動

先日京都マラソンに出場した。大学を卒業してから約20年間、ほとんど運動をしてこなかったが、昨年の10月から少しずつ走り込みをして何とか完走することができた。健康のためにも適度な運動を続けていきたいと思っている。



家族で

冬休みに家族でディズニールランドへ行った。子どもたちにとってはまさに夢の国だが、親はいえ、往復12時間車を走らせ、乗り物に乗るために長時間並び、クタクタになった。それでも帰りの車の中で、子どもの寝顔を見ると不思議と疲れも感じなかった。



ある日

夏の参議院選挙では、二ノ湯さとし候補のサポートで丹波、丹後地域を回った。秘書時代を思い出し懐かしさ思うとともに、京都市だけでなく京都府、そして日本という大きな視点を忘れてはいけないと改めて感じた。

